SHOW-HEY シネマルーム

★★★★

南十字星

1982 年／日本・オーストラリア合作映画
配給：東宝／144 分

2025（令和 7）年 8 月 31 日鑑賞	シネ・ヌーヴォ

Data　２０２５－８１

監督：丸山誠治、ピーター・マックスウェル
脚本：須崎勝彌、リー・ロビンソン
出演：中村敦夫／北大路欣也／ジョン・ハワード／坂上二郎／藤岡琢也／志垣太郎／鈴木瑞穂／内藤武敏／寺田農／草薙幸二郎／辻萬長／黒木瞳／伊藤めぐみ／青木明子／八木隆／木島一郎／原田力／沼崎悠／スチュアート・ウィルソン／胡茵夢

みどころ

大島渚監督の『戦場のメリークリスマス』（83 年）と同じ時期に、日本・オーストラリア合作映画として、日本占領下のフィリピンを舞台とするこんな映画が存在していたとは！？その主役が中村敦夫だったとは！

さらに、若き北大路欣也がカッコいい法務将校役で、『化身』（86 年）でデビューする前の黒木瞳が看護師役で出演していたとは！

伊東市では田久保真紀市長の学歴詐称問題が大ニュースだが、元外務省の通訳で、今は輸送船爆破事件の被告人とされている英・豪軍のページ大尉の軍事法廷の通訳を務める田宮（中村敦夫）のケンブリッジ卒は本当？

『戦場のメリークリスマス』は、日英の将校同士の対立がメインで交流は少しだけだったが、本作は田宮とペイジ間の友情と心の交流がメインだから、それに注目！

死刑判決は想定通りだが、絞首刑でも銃殺でもなく、斬首刑の執行にはビックリ！すると武士道に基づき田宮がその執行を？そんな姿をじっくり観察するとともに、敗戦後の田宮の無罪放免がある詩集のプレゼントによるものだったことを知ると、戦争中であっても（なればこそ？）教養の大切さを痛感！

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

■□■「戦後 80 年記念　決定版！日本の戦争映画史」でこの名作を！■□■

本作はシネ・ヌーヴォが開催した「戦後 80 年記念　決定版！日本の戦争映画史」で上映された 40 作品のうち、「“特攻隊の生還者”須崎勝彌脚本作品」として、『太平洋奇跡の作戦　キスカ』（65 年）、『あゝ零戦』（65 年）と共に上映された作品だ。私は『あゝ零戦』を公開当時鑑賞できなかったが、『太平洋奇跡の作戦　キスカ』はなぜか公開当時、高校生の時に鑑賞している。しかし、1982 年に公開された『南十字星』は、1979 年に独立して事

務所を持った後の最も忙しい時期で、映画館通いなど夢のまた夢の時期だったから、『連合艦隊』（81 年）は観たものの、本作のことはまったく知らなかった。

本作は、東宝創立 50 周年を記念して作られた、初の日本・オーストラリア合作の戦争映画で、海外では『The Highest Honer（最高の栄誉）』のタイトルで公開されたそうだ。後に戦争映画特集の DVD を大量に購入した中には、『ハワイ・マレーシア沖海戦』（42 年）や『人間魚雷出撃す』（56 年）等が含まれていたが、本作は含まれていなかったので、本作の内容は全く知らなかった。そうすると、本作は必見！そして 8／31（日）は、『日本海大海戦』（69 年）と続けて鑑賞できる時間帯での上映だったため、残暑（酷暑）の中、映画館へ！

本作は、「決定版！日本の戦争映画史」のチラシにおける「ジャンル分け」では、「戦意昂揚映画」「東宝特撮戦争映画」「巨匠たちの戦争映画」「創られ続ける戦争映画の数々」「多彩な戦争映画の数々」等と並んで、「“特攻隊の生還者”須崎勝彌脚本作品」に位置づけられたうえ、『太平洋奇跡の作戦キスカ』（65 年）、『あゝ零戦』（65 年）と共にラインナップされているが、寡聞にして私は脚本家・須崎勝彌のことを全く知らなかった。また、チラシでの本作の紹介は右のとおりだ。なお、「南十字星」と聞くと、私を含めて、劇団四季のファンはミュージカルの『南十字星』を思い出す人も多いはずだ。しかし、同作は太平洋戦争中の東南アジアが舞台であることや日本兵が主人公であることで共通性を持っているが、ストーリーは全く異なるうえ関連もないのでご注意を！

■□■舞台はシンガポール。「ジェイウィック作戦」に注目！■□■

本作の舞台は、日米開戦直後の 1941 年のシンガポール。シンガポールが電撃の南方作戦の結果、日本軍の手に落ちたことは周知のとおりだが、本作冒頭は、英・豪連合軍の特殊部隊 Z フォースの隊員たちがカヌーに乗って、港に停泊している日本の輸送船に爆弾を仕掛け 7 隻が爆破される姿が描かれるので、それに注目！

本作は冒頭の字幕で、監督が丸山誠治とピーター・マックスウェルであることや多くの英・豪俳優の名前が表示されるので、そんな冒頭のシーンに違和感はなかったが、開戦直後、戦勝気分に浮かれている日本占領下のシンガポールで、「ジョン・ウィック」ならぬ「ジェイウィック作戦」が遂行されたことにビックリ！いくら優秀な特殊任務チームとはいえ、

真っ暗闇の中、カヌーに乗ってあんなに手際よく爆薬を仕掛け、結果的に 7 隻もの輸送船の爆破を成功させるのは奇跡に近いが、本作冒頭ではそんなスリリングな展開に注目！

もっとも、それが英・豪の特殊部隊によるものだとは考えられない日本軍は、船舶爆破事件を中国人華僑の抗日ゲリラによる工作と考え、疑わしい住民たちを次々と捕らえ拷問することに。その結果、中国系住民の女性・陸蘭畦（胡茵夢）の兄・陸玉光（林継堂）は、抗日ゲリラの一員と疑われて逮捕され、処刑されてしまうことに。

■□■主演は中村敦夫！他に坂上二郎、藤岡琢也、黒木瞳も！■□■

「あっしには関わりのないことでござんす。」の名セリフで一世を風靡したのが、中村敦夫が主人公を演じたテレビドラマ『木枯し紋次郎』。1972 年に TV でオンエアされた同ドラマは大人気となり、中村敦夫はニヒルな役柄で有名になったが、本作の田宮にはそんな中村敦夫が主演しているので、それに注目！日本軍のシンガポール占領によってシンガポール住民は大変な目にあったが、逆にそれによって釈放されたのが、英・豪軍の捕虜とされていた外務省の通訳をしていた田宮稔（中村敦夫）。これによって「やっと内地に帰れる」と喜んだのも束の間、田宮は今度は通訳として現地で働かされることに。

私には、田宮と中国人華僑の女性・陸蘭畦との出会いが、ちょっとしたメロドラマ風だったことに違和感があったが、その後はペイジ大尉（ジョン・ハワード）率いる Z フォースの隊員たちが企んだ次の爆破計画が露見し、ペイジ大尉以下の隊員たちがすべて逮捕されてしまったところから、田宮が通訳としての本来の働きをみせていくので、それに注目！

また、大島渚監督の名作『戦場のメリークリスマス　4K 修復版』（83 年）（『シネマ 49』124 頁）では、漫才師ビートたけしの俳優としての起用に驚かされたが、ジャワ島の捕虜収容所を舞台とした同作は、日本人の陸軍大尉ヨノイ（坂本龍一）と捕虜となった英陸軍少佐ジャック・セリアズ（デヴィッド・ボウイ）との対立と交流を描いた名作だったが、本作もその後、通訳・田宮と捕虜ペイジ大尉との“心の交流”をテーマとして描いていくので、それに注目！

さらに、本作前半には坂上二郎、藤岡琢也ら、私にも顔なじみの日本人俳優がたくさん出演する上、何と宝塚歌劇団在籍当時の黒木瞳が看護婦役として出演しているので、ビックリ！私は彼女のデビュー作は美しいヌード姿が印象的だった『化身』（86 年）だとばかり思っていたが、その前にこんなチョイ役で出演していたことにビックリ！

■□■拷問？それとも対話？2 人の間の友情の芽生えに注目！■□■

2025 年 7／20 の参院選挙の結果、衆参両院とも与党の自公が過半数割れしたため、強引な運営が不可能になった議会（両院）では、石破政権の下で新たに“熟議”がキーワードとして強調されている。民主主義を大前提とする現行憲法下ではそれが当然だが、石油資源確保のため南方への電撃作戦を実行した 1941 年当時の日本軍では、逮捕した捕虜から自白を得るためには、拷問が常識だった。日本の憲兵隊による取り調べの過酷さは、映画『小林多喜二』（74 年）における日本共産党への弾圧を見るまでもなく有名だが、その過酷さ

（拷問）は本作冒頭の抗日分子だとされた華僑に対する取り調べでも、新たな輸送船爆破計画で逮捕されたペイジ大尉以下のＺフォース隊員たちも同じだった。

取り調べを担当する憲兵たちは英語をしゃべれないから、その通訳はもっぱら田宮の仕事だが、安易な拷問に走ろうとする憲兵を抑えるべく、田宮はペイジ大尉との対話による取り調べの道を探ることに。したがって、本作中盤では、ペイジ大尉の取り調べを巡る田宮との駆け引きややりとりが丁寧に描かれていくので、それに注目！一時は自分を騙して部下からの自白を引き出した田宮に対して不信感を爆発させたペイジ大尉だが、田宮の真意を理解すると、互いにファースト・ネームで呼び合うほどの信頼関係が生まれた上、互いに深い友情で結ばれていくことに。

■□■検察官役に北大路欣也が！軍事法廷の展開は如何に？■□■

去る 8／7 に観た韓国映画『大統領暗殺裁判　16 日間の真実』（24 年）は、1979 年 10／26 に起きた朴正熙大統領暗殺事件において、ただ 1 人、軍人の実行犯として軍事法廷の被告人とされた実在の人物パク・テジュ（仮名）とその弁護人となった架空の弁護士チョン・インフの 2 人を主役とする「法廷モノ」だったが、その出来はイマイチだった。それに対して、本作も中盤から後半は太平洋戦争時代の日本軍による英・豪軍捕虜を裁く軍事法廷モノになるので、それに注目！

軍事法廷が三審制ではなく一審だけであるのは、日本も韓国も同じ。また、本作の被告人ペイジ大尉には弁護人も付けられていないので、それにも注目！もっとも、私がそれ以上に注目したのは、『戦争と人間』3 部作（70 年～73 年）で、五代財閥の御曹司でありながら、日本共産党の活動に関心を示す東京帝大生を演じていた北大路欣也が、本作では若き法務将官（検察官）の立花法務少佐役として登場していることだ。そのカッコ良さは言うまでもないが、あの時代の日本陸軍の軍事法廷において、北大路演ずる立花のような法務将官（検察官）がいたことにビックリ！法務将官としての彼の信念の高さにはほとほと感心させられたが、そんな彼は「論告」で、ペイジたちの行動を「英雄的な行為」と讃した上で、栄誉ある死刑を求刑するので、その姿に注目！

■□■死刑の執行は絞首刑？銃殺？それとも？■□■

『東京裁判　4K デジタルリマスター版』（63 年）（『シネマ 45』52 頁）では、東条英機以下のいわゆる「A 級戦犯」たちの法廷での奮闘ぶりがよく描かれていたが、そこで死刑判決を受けた被告人たちに待ち受ける刑の執行は当然、絞首刑だった。それに対して、太平洋戦争末期の敗戦色が濃くなりつつあるフィリピンの軍事法廷で死刑判決が下されたペイジ以下の被告人たちの死刑執行は絞首刑？銃殺？それとも・・・？

武士道がもてはやされた日本には、“切腹”という名誉ある死があるが、その意味は西洋諸国には理解しがたいもの。「東宝 8.15 シリーズ」の第 1 作たる『日本のいちばん長い日』（67 年）では、三船敏郎演ずる陸軍大臣・阿南惟幾の切腹風景が長々と描かれたが、その壮絶さはものすごいものだった。しかして、本作で日本陸軍参謀部がペイジたち 10 名への

死刑執行として宣告したのは斬首刑だったから、ビックリ！それを聞いた田宮はせめて「銃殺刑に！」と嘆願したが虚しく却下。そんな状況下、田宮が剣道の達人であることを知ったペイジは、「君の手で天国に送ってくれ。」と頼み込んだが、さて田宮は？

戦後 80 年を経た現行憲法下では、死刑執行に必要な法務大臣の承認（命令）が容易に出されないが、太平洋戦争末期の軍事法廷では死刑判決から死刑執行までの日数は短い。10 名もの斬首刑による死刑執行の風景を見るのは本作が初めてだが、その執行は如何に？そう思っていると、予想どおり、一度は「私には無理だ」と断っていた田宮が、自分の日本刀を持って駆けつけてきたから、ああやっぱり・・・。

■□■田宮の教養は？彼はケンブリッジ卒？それとも学歴詐称？■□■

日本が日米開戦を決断する前には、長期にわたる中国大陸への進出があったが、それはなぜ？それをめぐって「先の大戦」を“太平洋戦争”と呼ぶのか、“大東亜戦争”と呼ぶのかの論争がある。その妥協点として「太平洋アジア戦争」と呼ぶべきとの意見も強い。それはともかく、日本が中国大陸に進出していた当時、「外国語を学ぶなら中国語を」と考えた人が多かったのは当然だから、あの当時、英語の勉強をしたのは外務官僚志望のエリートだけ？本作における田宮の流暢な英語を聞いていると、誰でもそう思うはずだ。

それはペイジも同じだったようで、ペイジは「君の英語はオクスフォードで習ったのかね？」と聞いていた（茶化していた）が、それに対する田宮の答えは、「失礼した。私が出たのはケンブリッジ」だから、ビックリ！田宮は本当にケンブリッジを卒業したの？それとも、これは、現在大問題になっている静岡県伊東市長の田久保真紀と同じような学歴詐称？

本作前半の田宮とペイジとのやりとりを見ていると（聞いていると）、田宮がシェイクスピアはもとより、イギリスの詩集等にも通じていたことがよくわかる。あの時代、通訳の田宮と捕虜のペイジとの間で、本作にみるような友情と信頼が育

まれるについては、互いの任務感だけではなく、互いに教養人だったことが大きく寄与したらしい。本作導入部ではその小道具として、田宮がペイジに送った 1 冊の詩集が登場するので、それに注目！文字数の多い小説に対して詩集は字数が少なく空白のページが多い。したがってコスパは悪いが、その分空白部分を有効に使えば・・・？

田宮の日本刀による介錯によってペイジの首がとんでしまった後、日本敗戦までの時間は短かった。その結果、本作ラストは終戦後連合軍の捕虜となった田宮が捕虜殺害の罪で軍事裁判にかけられ、死刑を求刑される姿が描かれるから、それに注目！そんな中、“ある事情”によって田宮とペイジの間の友情と斬首がペイジの希望だったことが証明されることによって、田宮は無罪放免されるが、それは一体ナゼ？なるほど、どんな時代でも人間には教養が大切なことを痛感！

2025（令和 7）年 9 月 3 日記